

## 2018年度 第2回理事会議事録

【日時】2019年1月22日（火） 19:00～21:00

【会場】釧路市中国町24番10号杉元内科医院会議室

【出席者】（五十音順・敬称略）

理事長：杉元 重治

副理事長：竹田 匡 谷藤 公紀 望月 誠

理事：浅野 洋郎 稲荷 弥生 岡田 実継 金森 泰夫

細川 克裕 宮前 彰彦 吉野 整子 米澤結実子（計12名）

監事：若杉 貴子（計1名）

【欠席者】（五十音順・敬称略）

理事：岩瀬谷加奈（1名）

監事：なし（0名）

### 議 事

#### 1 定足数の確認

出席者12名により、理事総数の過半数（7名）を上回っていることを確認した。

#### 2 議長選任

定款第35条にもとづき、杉元理事長が望月副理事長を指名し議長に就任した。

#### 3 議事録署名人選任

定款第38条にもとづき、望月副理事長と杉元理事長を議事録署名人とした。

#### 4 開会挨拶

杉元理事長から開会の挨拶があった。

#### 5 議長からの報告事項

望月議長から次の2点について、報告が行われた。

（1）岩瀬谷理事から辞任の申出があり、理事の辞任となった。

（2）竹田副理事長のご母堂の逝去に伴い、本会から慶弔費を支出する。

#### 6 議案

（1）寄付金の取扱いに関する規則（2019年規則第4号）（資料1）

竹田副理事長から資料のとおり説明が行われ、原案のとおり承認された。

#### 7 協議事項

（1）中期計画の策定について（資料2）

竹田副理事長から資料のとおり説明が行われ、協議を行った。

○ 3～5年は、最終的に CCL はどうあるべきか。制度の改正もあり5年後がどうなるのかがよくわからないところもある。今やっていることをどうするのか。そこから話をすると現実的で話しやすいのではないか。

○ サロンが病院の負担になっているのではないか。病院で必ずしも浸透されていないこともあり、病院で継続していいのか確認が必要。病院でなくても開催できる場所も検討した方が良くはないか。サロンは継続するべきではないか。

○ 病院以外の箱ものの設定は難しいのではないか。集まれる場所があれば、開催

できるのではないか。

- 病院で開催する意味があると思う。普段、出ない人が出てくるというメリットもあるのではないか。病院で開催する意味はあるのではないか。顔が見える関係が築けるのではないか。
- 病院のルーチン化しているので、定期的な開催になりつつある。テーマは、設定の仕方にもよるが、色々ところが検討できるのではないか。年間計画に沿ったサロンが開催されれば、色々な協力ができるのではないか。
- さまざまな団体との活動の協働や連携ができればいいのではないか。今後の事業展開につながっていくのではないか。相談支援事業を展開する基盤として3年ぐらいかけて築くことが必要ではないか。
- 市民の視点からすると介護のことがわからないという声もある。一般市民にも理解を促していくことが求められる。市民が医療と介護のことに理解してもらえるように働きかけていくことが必要である。行政ができない、病院ができない、分かりやすく伝えていくことが必要である。一般市民への啓発が必要ではないか。
- 医療機関と地域包括支援センターとのつながり十分ではないかと思うところが、地域の相談室としての CCL の役割があるのではないか。相談支援が大切だと思う。早い段階で把握できるのが良いのではないかと思う。結果的に本人の負担の軽減につながるのではないかと思う。
- 相談支援に関する具体的な展開を考えていく3年間としてはどうか。医師も考えていくだけの時間を把握することが難しいのではないか。
- 研修会を中心に事業展開を実施してきたところであるが、相談事業とか、研修会・学習会事業を展開していくだけのモノをどのように確保していくのか。業務、実務を担う、支援する活動を検討していく必要があるのではないか。それによって規模が変わるのではないか。一番は人とお金をどのように確保していくのか。
- 在宅医療歯科連携室がある。月20件の相談がある。年間800万円の規模の予算規模である。苦情対応も含めると業務量が多くなる。日中の相談事業となると人とお金が重要である。財源の確保が重要である。全ての2次医療圏に設置する目標ではあったが、無くなるかもしれない。
- これまでの CCL の活動を振り返ると、市内にある社会資源をうまく活用していくことが重要である。一番先に相談するのが看護師であり、看護師から連携室につながぐということになるのではないか。病院で開催するサロンに看護師が参加することは良いことではないか。直接的な事業を実施していくよりも、既存の社会資源と連携してくことが求められる。他団体等との連携をしていくのが重要である。サロンの展開について、担当する人の負担を軽減していくことも必要ではないか。
- サロンでつながる場になるのではないか。薬剤師ともつながりの場を設けていくことが必要ではないか。
- 外来にいる医師も看護師もニーズを把握することに至っていない現状がある。なかなか相談しづらいのではないか。相談しやすいところにつなげていくことが必要である。入院前を含めて生活歴を把握することが大切である。

- まちかど相談薬局を掲げてやっているが、なかなかうまくいっていない。チェックリストがあってもスクリーニングに至らない。業務に追われてなかなか相談につながらない。
- 既存の資源をつなげていくことが地域包括ケアシステムであり、現在に取り組んでいる病院で開催するサロンは大切である。
- 地域住民や民生委員との関りも大切ではないか。地域包括支援センターで全てを把握することは難しいのではないか。
- いろいろな連絡がくることが大切である。医療機関から通院しない患者のことで連絡がきたことで、支援につながっていったこともある。つながる資源があれば、つながっていくのではないか。
- 市民公開講座の取組みが大切である。直接、市民に対して普及啓発をしていくことが必要である。医療機関や介護職員に対する理解を促す研修会等を開催していくことも必要ではないか。これからも継続すべきことではないか。
- 全くつながっていない、顔のみえづらい医療機関がある。そういうところとどのようにつながっていくか、課題にしていくのが大切ではないか。
- 病院で開催する意義はこれまでの意見のとおり。病院で開催する成果や効果を病院のスタッフと共有することが大切だと感じた。参加していない人もいるので、継続的に開催していくことが大切ではないか。世代としての違いがあるのではないか。相談支援は、どのタイミングでするのだろうか。家族が相談する先がネットもある。ホームページから相談するのもあるのではないか。きっかけの1つにもなるのではないか。
- いろいろな受付をしていて思うのは、サロンは継続的に参加する人は参加している。継続的に参加する人も難しい。シリーズ化じゃない方がいいところもあるのではないか。今年度のサロンは、防災のテーマで参加してみると参加しやすく、知り合うことができ貴重な機会であった。ICT って言われても何を言っているのかが分からない。今の時代を説明してくれるとありがたい。
- 人と金とモノを確保していくが法人経営上必要である。助成金頼りのところもあり、知恵を出して確保していくことが求められる。市民への普及啓発、専門職への啓蒙の両方が必要である。在宅医療を選択するには色々と課題がある。
- 私たちが取り組むべきこと、重なるところ活動、方向性が同じところ、関係団体と連携しながらどのように展開していくのか。CCL でやれること、強みを伸ばしながらつながり作りできればいいのかなと思う。過去の事業のつながりが途切れているところもある。事業でつながれることもある。深い関係性もある。関係団体と協働していくことが大切である。
- 関係団体と協働しながら資金を確保していくことも考えられる。

上記のことを踏まえて、継続的協議とした。

## (2) 2019年度事業計画について (資料3)

竹田副理事長から資料のとおり説明が行い、次回の理事会の継続協議とした。

(3) 地域住民向け研修会の開催について (資料4)

竹田副理事長から資料のとおり説明が行い、3月21日14:00~15:40に開催することとなる。

(4) 助成金の申請について

竹田副理事長から資料のとおり説明が行い、それぞれ原案のとおり承認された。

・第8回(研究)杉浦地域医療振興助成の申請について (資料5)

・NPO自動寄付制度の申請について (資料6)

8 報告事項

(1) 公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団助成事業の実施状況及び帯広ACP講演への参加について、資料7に基づき、望月議長から説明があった。

(2) キリン地域の力応援事業の申請について、資料8に基づき、竹田副理事長から説明があった。

(3) 釧路市との委託契約締結及びサロン・研修会の実施について、資料9に基づき、竹田副理事長から説明があった。

(4) CCLバッジの制作と販売について、資料10に基づき、竹田副理事長から説明があった。

(5) 会員の入退会について、資料11に基づき、竹田副理事長から説明があった。

9 閉会

21時00分閉会した。

10 次回

3月12日(火)19:00からとした。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2018年1月28日

議事録署名人 議長(副理事長) 望月 誠

議事録署名人 理事長 杉元 重治

